

十二因緣繪卷詞書

十二因縁繪卷詞書

根津家本十二因縁繪卷詞書の全文を活字に移すに當つて卷中所用の異體文字に就いて一言したい。同卷中に書かれた異體文字は非常に多いが、概して當代通行の書體をとつてゐる。随つて特に本卷にのみ見る異體字は甚だ少いが、今便宜のために其の大部分を左に例舉することとした。文字排列の順位は本文所見の次第に依り同字の重用は初に見る順位に依つて以下是れに倣ふこととした。(田中)

卷中所用異體文字表

レ	キ	チ	テ	ヤ	ホ	ア	マ	セ	セ	シ	ユ	ケ	ケ	ツ	ツ
剌	利	須	須	梗	健	灾	災	擣	釋	奉	率	旌	强	策	策
扱	扱	數	數	汶	浴	再	再	彈	彈	帰	歸	達	達	益	益
感	感	各	咎	隨	隨	共	失	雅	雖	害	害	閑	閑	穰	穰
捷	捷	散	散	隨	墮	糝	彌	群	譬	擲	擲	暫	暫	刃	刃
攝	攝	率	率	鐵	鐵	發	發								

繪 第一段

(第一紙 四七・二種)

(大王立ちて、右手劍を持し、坐せる三眼の赤鬼に對す。赤鬼遠く指す、鬼形の上、あら〜、かなしやな〜の落書あり。)

詞 第一段

大鼓三頭羅刹 有支也

三以有支、大鼓羅刹、者大鼓其響鼓動、境內、經云、須勇健力、乃可降伏、云々、三門裏者、三門表、三界門、經云、此三有即三大龍、王龍王布雲、降雨、爲事業、表三有已潤、有支義、也、門裏者、有支其體、三界生因生支、未現行、故云、門裏、也、經云、身有三頭、云々、因、體三、頭、又三界頭之因、故也、此鬼持三、崎、戟、者、顯業用、三頭三業、器械、也、次、世間、災患、非我所作、有鬼、夜行、中、自、

(第二紙 四七・二種)

在是我主我彼所使、矣

繪 第二段

(右に殿堂の屋蓋見ゆ。極樂の二字墨書あり。一鬼武裝して三叉戟をとつて坐し、大王に對す)

(第三紙 四七・二種)

詞 第二段

三頭羅刹請降之

法喻合說有支被對治矣

羅刹見王威德嚴厲、驚惶而起、叉手、合掌、舉着、頂上、而作是言、善來大、王威德、尊、重、如、似、天帝、釋、悲、救、世、

十二因緣繪卷詞書

人、云々

繪 第三段

(武裝の一鬼坐して三叉戟を投じ、立てる大王の前に合掌す)

詞 第三段

四頭四面羅刹 取支也

四以取支、四頭羅刹、者表四取、也、取、着、義、取、着、諍論、取、後、有、果、故、經、云、四、取、牽、於、我、着、於、有、中、云々、四、取、者、欲、取、見、戒、取、我、語、取、也、今、此、四、取、在、家、出、家、品、諍、論、根、本、故、經、云、四、取、強、力、補、嬰、愚、云々、以、百、姓、災、患、非、我、所、作、有、婦、女、鬼、爲、彼、驅、策、制、不、由、已、矣

繪 第四段

(四頭鬼個體を臺とし、身に數蛇を纏ひ三叉戟をとつて坐し、立てる大王に對す)

詞 第四段

婦女羅刹 亦變王夫 愛支也

五以愛、喻、婦女羅刹、者、婦、女、形、有、柔、儀、故、也、是、故、經、云、王、捉、其、手、云々、又、經、云、外、善、軟、心、懷、毒、虎、云々、經、云、亦、婦、女、變、作、夫、人、云々、愛、樣、品、品、說、魅、惑、有、情、也、依、經、云、此、鬼、須、叟、變、惑、若、干、色、像、云々、又、愛、數、數、起、用、唯、識、論、云、說、愛、如、水、能、浴、潤、故、要、數、澆、灌、一、方、生、有、牙、云々、故、婦、羅、刹、再、顯、凶、惡、以、指、他、過、云、彈、琴、聲、是、我、根、本、一、切、災、患、彼、女、所、爲、也

繪 第五段

(一婦女坐して、立てる王に對す)

詞 第五段

婦女羅刹變作王夫人之所

時羅刹女捨己身相、而化作王所重、夫人、在、王、後、行、語、於、王、言、我、常、爲、王、最、所、愛、重、何、以、棄、我、夜、行、至、此、更、愛、誰、耶

繪 第六段

(婦女、頭に花を飾り、立てる大王に對して、媚を呈す。王、婦女の手をとる)

詞 第六段

愛羅刹歸伏王之所

羅刹即時合掌、作禮、而言、我、今、誠、心、歸、於、王、云々

繪 第七段

(婦女立ちて合掌、大王を拜す)

詞 第七段

歌女三垂髮鬼 受支也

六以受支、喻、三垂髮、者、受、所、緣、境、有、順、違、中、三、相、三、受、別、故、經、云、三、垂、髮、也、意、對、順、益、境、起、歡、喜、心、於、違、損、境、起、憂、感、心、向、中、容、境、一、起、捨、受、相、唯、識、論、云、受、領、納、順、違、俱、非、境、相、爲、性、起、愛、爲、業、又、云、受、含、心、等、起、歡、感、捨、相、云々、既、苦、樂、捨、別、故、云、三、垂、髮、有、其、理、今、經、云、汝、之、與、受、過、咎、正、等、然、愛、就、着、境、爲、性、受、領、納、爲、性、彼、此、俱、相、順、墮、流、轉、則、令、諸、有、情、所、受、生、果、上、流、轉、受、業、用、所

四七

過失與愛正等說也次我有主名曰四牙汝雖害我於汝

〔无利〕

繪 第八段

（婦女、大王と相對して坐し、婦女琴を彈す）

（第九紙 四七・三種）

詞 第八段

四牙羅利 觸支也

七以觸支二喻四牙羅利一者根境識三和合生

觸故云三和二和加所生觸其牙四也經云王求

四牙羅利一即擒獲之云々顯觸義也觸心

對可意不可意及俱非境一起苦樂捨三受是

故觸所取可意等相受所取順益等相

相似故四牙羅利爲三垂髮羅利成前導也

經法喻合說云菩薩以智慧手而摩於觸而

語觸言汝名何等生於一切衆生之苦受因

汝有生死脚足便得增長閉涅槃

門云々觸業用者合諸有情於所受

用境界流轉業用意依觸令有

情流轉生死爲言次非我凶惡有六羅利是我

之主也

繪 第九段

（坐せる鬼形、立てる大王の手をとる）

（第十一紙 一五・二種 第十二紙 三二・五種）

繪 第十段

（洞窟のうち五羅刹あり、洞外諸獸是れに侍す。右方大王劍をとり一羅刹を降伏せしむ。）

繪 第十一段

（赤鬼、右手三叉戟を持し、青鬼と共に坐し、立てる王に對す）

（第十三紙 三〇・〇種）

詞 第九段

速疾金翅鳥 識支也

（第十四紙 三三・五種）

十以識支二喻金翅鳥者識以了別爲行

相故是捷利也尤可云速疾識能緣作用

離有對質碍一金翅鳥王敢不可捕都物

不被拘繫故喻云速疾金翅鳥也今經云

若識不處母胎歌羅羅即便散壞若

散壞者何緣而得有衆生身又云名色與

識一切衆生輪轉根本云々大乘宗意識

支體第八識名言種子今經如猿猴云々

隨轉小乘須六識猶猴喻一歟 遺教經云

是故汝等當好制心譬如猿猴得樹騰踊

蹕擲難可禁制控之無令放逸縱此心者喪

人善事制之一處无事不辨又有經云心如

獼猴遊五欲樹不暫住故云々流轉因云

事明也次有三男子是我之王

繪 第十二段

（金翅鳥鬼、大王に對して坐す。大王右手執刀金翅鳥鬼の羽翼を執る）

（第十五紙 二一・七種）

詞 第十段

三男子羅利 行支也

（第十六紙 三八・一種）

十一以行支二喻三男子者顯輪廻業因無際

凡由行支勢力令諸有情趣種種異趣也

故今經法喻合說云識言我爲業行之所

走使隨其善惡受五趣形云々意云業

行引識等五支无記名言種子攝屬已故

行支率云我與汝生某甲越現行我宜

與汝等爲言行支種子譬如磁石五支如

鐵仍行支重發識等名言種子時如磁石

吸一鐵譎但三羅利體者一云身語意三

業一云善等三性諸教說行唯善惡无

无記行支一云檀羅利當善業一極惡羅利

配不善業一火髮羅利可無記業仍加假說

行支云三羅利也一云福等三業極惡者

非福業極檀者不動業有禪定資重義

故名 梅檀火髮可福業矣次離此不遠

有不明羅利世間非法皆是彼作云々

繪 第十三段

（寶樹を中央にして三鬼大王に對して坐す）

（第十八紙 二・五種）

詞 第十一段

三羅利行 支指無明羅利之所

（第十九紙 八・八種）

三羅利言離此不遠有 浪 聚 塚 諸惡禽

獸 樵 穴彼中種種鬼神以爲眷屬世間非

法皆是彼作云々

繪 第十四段

（三羅刹、執刀の大王に對して坐し、其の一鬼右手遠く左方を指す）

（第二十紙 二五・三種）

美術研究所藏版出版物

黑田清輝作品收藏目錄

定價八十錢
送料六錢

ビニヨン氏招聘委員會主催

英國水彩畫展覽會目錄

定價一圓二十錢
送料八錢

三原繁吉氏藏

浮世繪版畫展覽會目錄

品切

發行所 岩波書店

美術研究所藏版美術懇話會出版物

美術研究資料第一輯

支那古版畫圖錄

品切

發行所 大塚巧藝社

美術懇話會叢書第一

香取秀眞著

和鏡の話

定價五十錢
送料六錢

發賣所 岩波書店

帝國美術院附屬美術研究所編輯

美術研究 第十八號 (每月一回)

昭和八年六月廿五日印刷
昭和八年六月三十日發行

定價一圓五十錢 送料八錢

發行所

帝國美術院附屬美術研究所內

編輯者兼

美術懇話會
東京市下谷區上野公園

印刷人

青山新
東京市麻布區榮町八

コロタイプ印刷

白井赫太郎
東京市神田區錦町三ノ一七

發賣所

東京市神田區
一ツ橋通町三番地

大塚巧藝社
東京市本郷區金助町七二

豫約購讀會費

每月 一圓五十八錢 (送料共)
半年分 九圓 (送料共)
一年分 十八圓 (送料共)

一切前金にて振替口座東京二六二四〇番岩波書店へ御拂込下さい。
郵券代用は一割増に願ひます。

電話九段(33)〇一八七番(以下4)
振替口座東京二六二四〇番